

# 教員養成における校外学習を想定した 体験型授業の成果と課題

溜池 善裕・川島 芳昭・出口 明子・五十嵐奈央・上原 秀一・川原 誠司  
齋藤 大地・守安 敏久・松島さくら子・平井 李枝・岩崎 宏之

宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要 第11号 別刷

2024年8月31日



# 教員養成における校外学習を想定した 体験型授業の成果と課題<sup>†</sup>

溜池 善裕\*・川島 芳昭\*・出口 明子\*・五十嵐奈央\*・上原 秀一\*・川原 誠司\*  
齋藤 大地\*・守安 敏久\*・松島さくら子\*・平井 李枝\*・岩崎 宏之\*  
宇都宮大学共同教育学部\*

本報告は、宇都宮大学と群馬大学の共同教育学部の学生が合同で実施する体験型授業「教職特別演習Ⅱ」を実施した成果と課題について報告することを目的としている。授業は、小学校第5学年における総合的な学習の時間の一環として行う日光東照宮での校外学習を題材に実施した。特徴は、校外学習を実現するために必要な「教師の視点」として実施計画や安全指導などの観点からの学び、引率する児童の立場（児童の視点）から校外学習を意義のある活動にするために現地でのどのような活動をすべきかを考える学びの二つの学びを融合した授業としたところにある。授業の成果をアンケート調査から分析した結果、「教師の視点」「児童の視点」に基づく活動や事後の省察活動が教職志向を向上させる因子であることが確認できた。また、実際の体験によって得られた学びや気づきの重要性や、班活動によるチームワークやコミュニケーションの重要性を感じる学生が多いことが分かった。

キーワード：教員養成，校外学習，体験型活動，引率指導，大学教育

## 1. はじめに

情報化やグローバル化，さらには生成AIの急速な発展など，社会的変化が激しく，予測が困難な時代に対応できる人材を育成していくことは重要である。そのためには，小・中学校からの質の高い教育が求められる。この要望を実現することを目指し，2019年度に宇都宮大学教育学部は，群馬大学教育学部と全国初の共同教育学部を新設した。共同教育学部は，両大学の特色を活かしたシナジー効果により，教員養成の高度化を実現し，実践力を備えた義

務教育教員人材の安定した輩出により，それぞれの地域に貢献することを目的とした学部である。このことを実現するために，Forefront科目群や先端課題解決科目群などを創設し，両大学の特徴的な資源を共有したり，時代を先駆けた学びを実現したりすることを目指している。さらに，両大学の資源だけでなく，学生間の交流を通して，多面的，多角的な教員養成の実現を図るための教職特別演習も新設した。

教職特別演習は，大学2年次に群馬大学が主体に実施する「教職特別演習Ⅰ」，3年次に宇都宮大学が主体に実施する「教職特別演習Ⅱ」がある。これらの活動は，両大学の学生間の交流を通して，他地域の異なる情報を交換したり，教育実習だけでは体験が困難な校外学習を実際に体験したりするものである。特に，校外学習の疑似体験は，実施計画立案の重要性や安全指導，集団を動かすために必要な配慮事項などに気づくことで，教職志向を高めることを目的とした体験型授業である。

体験型授業を実施している例としては，昭和女子大学の「特別活動の指導法」の授業の中での「模擬

<sup>†</sup> Yoshihiro TAMEIKE\*, Yoshiaki KAWASHIMA\*, and Akiko DEGUCHI\*, Nao IGARASHI\*, Syuichi UEHARA\*, Seishi KAWAHARA\*, Daichi SAITO\*, Toshihisa MORIYASU\*, Sakurako MATSUSHIMA\*, Rie HIRAI\*, Hiroyuki IWASAKI\*: Significance and Challenges of Experiential Classes with Off-campus Learning in the School Teacher Training Course

\* Cooperative Faculty of Education, Utsunomiya University

(連絡先:kawasima@cc.utsunomiya-u.ac.jp 川島芳昭)

表1 授業計画

回	授業計画	実施日	具体的内容
1	ガイダンス	2023/5/30 宇大対面 群大オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業全体の趣旨、流れの説明を行う</li> <li>・宇都宮大学教職大学院に在学の現職教員より校外学習における指導の留意点に関する講話を行う</li> </ul>
2	校外指導の計画及び教員の留意事項の理解	クラス/グループで設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日光での校外学習（班別行動）のための調査、計画を行う</li> <li>・班別行動での教員の留意事項を検討する</li> </ul>
3	校外学習のしおり作成演習	クラス/グループで設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班別行動に則した校外学習のしおりを作成する</li> </ul>
4	校外学習における安全指導	2023/12/23 Zoom	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇都宮大学教職大学院に在学の現職教員より、班別に作成したしおりへの指導、校外学習の留意点に関する指導を行う</li> </ul>
5	体験活動1（全体指導と安全指導の指示の仕方体験）	2024/2/10 クラスA,C,D,F,H,K	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス移動、日光での昼食、日光東照宮及び周辺エリアにおける班別活動を行う</li> <li>・9:30 群大発 10:30 宇大発</li> <li>・12:00-13:00 昼食</li> <li>・13:00-15:00 班別活動</li> <li>・17:30 群大着 16:30 宇大着</li> </ul>
6	体験活動2（班別活動の体験）	2024/2/11 クラスB,E,G,I,J,L	
7	体験活動3（終了時の指導体験）		
8	省察（体験活動の振り返り、他クラス/グループとの共有・相互理解）	2024/2/12 Zoom	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス/グループ混合のブレイクアウトルームで活動の成果と課題を共有する</li> <li>・授業全体のまとめを行う</li> </ul>

遠足」がある<sup>1)</sup>。この授業では、長沼他<sup>2)</sup>により立案された実践方法に基づく校外引率行事の演習を行い、教員役と児童・生徒役の学生に分かれて実際に遠足を行うものである。その成果として、教員役の学生が緻密な準備の重要性の気づくためには、校外で「教育」する経験が重要であることが報告されている。しかし、教職志向への影響などについては言及されていない。

そこで本報告では、教育実習だけでは体験できない校外学習を「教師の視点」「児童の視点」から体験する授業を実施し、教職志向への影響や校外学習の効果について検討することとした。

## 2. 授業概要

本授業は、附属学校での教育実習と協力校実習を終えた3年生を対象に行った。内容は、小学校第5学年における「総合的な学習の時間」の学習活動の一つとして地域の文化遺産を見学する校外学習とした。この時、学生には、「教師の視点」から校外学習の指導の在り方を学ぶことと「児童の視点」から学ぶべき内容の二つの視点から体験的な活動が行えるように設計した。これは、共同教育学部の設置審査文書に記載の「教育実習後に、演習を通して、子ども理解、教職への使命感・責任感、教育的愛情、対人関係能力、教科指導にかかわる自らの資質能力を振り返り、確認する」という本授業の目的に鑑みた

ものである。

具体的には、栃木県の日光東照宮及び周辺エリアにおける校外学習を中心的な活動に設定し、以下の点を取り入れた授業設計を行った。

- ・子ども理解や教職への使命感・責任感等を意識できるよう、校外学習の指導の想定においては、一貫して「教師の視点」及び「児童の視点」の各視点を持って活動に取り組むこと。
- ・対人関係能力等を意識できるよう、両大学混合の活動を活性化させること。
- ・校外学習を中心とした児童・生徒への指導全般について、より実践的な観点を意識できるよう、宇都宮大学教職大学院に在学の現職教員複数名から指導をいただく機会を設けること。

### 2.1 授業内容

表1に実施した教職特別演習Ⅱの授業計画を示す。

表1に示すように、本授業は8回（7.5時間）の授業として実施した。各授業の概要は以下の通りである。

1回目：ガイダンス（1時間）

ガイダンスは、宇都宮大学生（以下、宇大生）は対面、群馬大学生（以下、群大生）はオンデマンドにより実施した。これは、両大学のカリキュラムの関係から両大学の学生が全て参加できる時間の調整

が困難であったための措置である。群大生には、オンデマンド資料として、当日のガイダンスの様子を動画資料として提供した。

内容は、教職特別演習Ⅱを実施する意義や目的、今後の授業計画などの解説と宇都宮大学教職大学院に在籍する現職教員からの講話の二つのこととした。講話は、現職教員が経験を基に計画や指導上の留意点など実践的なものであった。

2～3回目：クラス／グループ活動1（1.5時間）

2回目から3回目の活動は、日光における校外学習のための事前調査や計画、さらに計画に基づいた「活動のしおり」の作成を学生主体で行う活動とした。具体的には、AからLの12クラスで構成されているクラスごとに、一つの「活動のしおり」を「教師の視点」から作成させた。次に、1クラスを6つの班（各班、4から6名で構成）に分けて、「活動のしおり」に従った計画を「児童の視点」から作成させた。内容は、役割分担や見学場所の選定と見学ルート、さらに見学場所に関する事前調査や現地での学習目的などを班ごとに計画し、実践をさせた。

4回目：校外学習の安全指導（1時間）

4回目は、Zoomによるオンライン授業として行った。内容は、作成した「活動のしおり」や計画について、クラスごとに教職大学院の現職教員から指導を受け、その後、「活動のしおり」の修正や計画の見直しをする活動である。そのために、学生が作成した「活動のしおり」を事前に現職教員が確認をし、その教員の経験や体験を基にした検討を依頼した。当日は、その結果を基に、クラスごとに指導を受ける活動を行なった。特に、見学ルートや安全指導、持ち物などは、教員として引率した経験のない学生では気が付かない視点からの指摘を受けることで「教師の視点」の学びを深化させることを目指した。その後、「児童の視点」に戻って計画の修正を話し合わせる活動を行なった。

5回目～7回目：体験活動（3時間）

5回目～7回目は、日光東照宮に赴き、班ごとの「活動のしおり」に従った校外学習の体験活動を行なった。活動は、12クラスを6クラスごとに分けて二日間で実施した。両日共に、それぞれ3時間の校外学習を体験させた。その際、「児童の視点」として施設の見学をさせ、分かったことや気づいた点を「活動のしおり」に記述するなど学習であることを意識させた。また、活動中、活動後に感じたこと、考え

表2 アンケート

主質問	項目	回答
2.以下の活動は、あなたの「子ども理解」を高めることに役立ちましたか？	(1) 宇都宮大学教職大学院に在籍する現職院生の小中学校の先生から、校外学習の指導に関する話を聞いたこと。	5件法
	(2) 教師の視点に立って、日光での活動の実施計画を立てたこと	5件法
	(3) 児童の視点に立って、班別活動の役割分担を決めたり活動のしおりを作ったりしたこと	5件法
	(4) 日光で班別活動を行ったこと	5件法
	(5) 事後の省察で活動全体の振り返りを行ったこと	5件法
3.以下の活動は、あなたの「教職への使命感・責任感」を高めることに役立ちましたか？	(1) 宇都宮大学教職大学院に在籍する現職院生の小中学校の先生から、校外学習の指導に関する話を聞いたこと。	5件法
	(2) 教師の視点に立って、日光での活動の実施計画を立てたこと	5件法
	(3) 児童の視点に立って、班別活動の役割分担を決めたり活動のしおりを作ったりしたこと	5件法
	(4) 日光で班別活動を行ったこと	5件法
	(5) 事後の省察で活動全体の振り返りを行ったこと	5件法
4.以下の活動は、あなたの「対人関係能力」を高めることに役立ちましたか？	(1) 宇都宮大学教職大学院に在籍する現職院生の小中学校の先生から、校外学習の指導に関する話を聞いたこと。	5件法
	(2) 教師の視点に立って、日光での活動の実施計画を立てたこと	5件法
	(3) 児童の視点に立って、班別活動の役割分担を決めたり活動のしおりを作ったりしたこと	5件法
	(4) 日光で班別活動を行ったこと	5件法
	(5) 事後の省察で活動全体の振り返りを行ったこと	5件法
5	本授業の一連の活動は、あなたの教職に関する資質・能力を振り返る機会になりましたか？	5件法
6	「5.」でそのように回答した理由を教えてください。	記述式
7	本授業の一連の活動は、あなたにとって教職に対して前向きな気持ちを持ったり関心を高めたりする機会になりましたか？	5件法
8	「7.」でそのように回答した理由を教えてください。	記述式
9	本授業全体の感想について自由に記述してください。良かったと思う点、改善した方が良かった点があればそれも含めて記入してください。	記述式

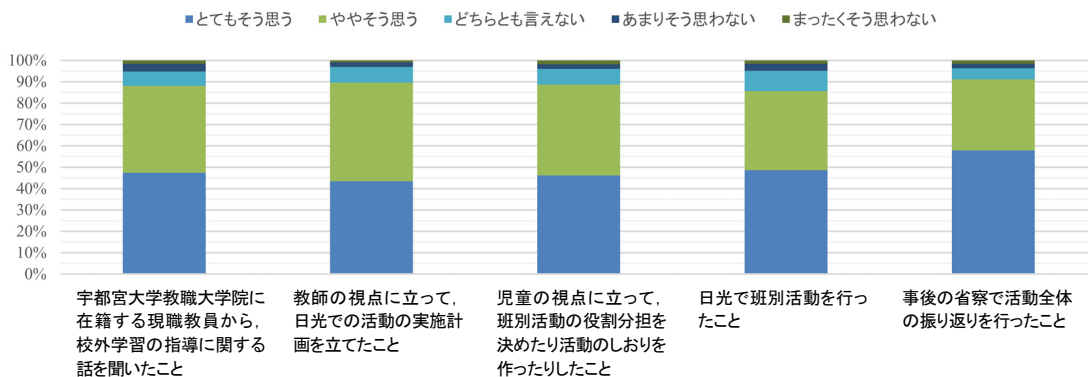


図1 「2. 以下の活動はあなたの「子ども理解」を高めることに役立ちましたか？」の回答結果

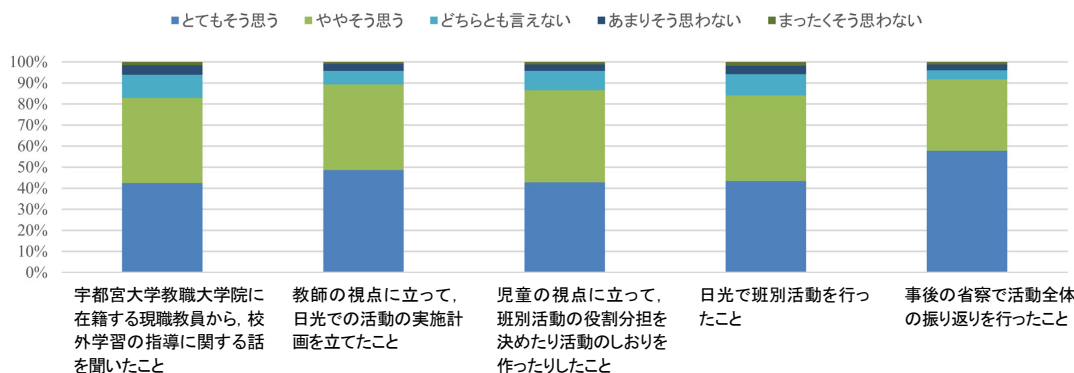


図2 「3. 以下の活動は、あなたの「教職への使命感・責任感」を高めることに役立ちましたか？」の回答結果

たことなどを「教師の視点」として、円滑かつ安全な校外学習を行うために必要なこととしてまとめ、最後の省察に向けた準備をさせた。

8回目：省察（1時間）

校外学習の体験を通して、分かったことや気がついたことを、各クラスと同じ班同士でグループにし、自分たちが経験したことや感じたこと、考えたことについて省察を行わせた。具体的には、Aクラスの1班の学生は、B～Fクラスの1班の学生と、Gクラスの1班の学生は、H～Lクラスの1班の学生とそれぞれグループを構成させた。これにより、全部で12グループを構成して省察活動を行わせた。

### 3. 成果と課題

全ての活動が終了した後に、アンケート調査（回答者数327名）を実施した。アンケート項目は、「子ども理解」「教職への使命感・責任感」「対人関係能力」「教職志向」の観点から作成した。実施したアンケートを表2に示す。表2に示すように、質問項

目は20問とし、17項目を5件法(5.とてもそう思う、4.ややそう思う、3.どちらとも言えない、2.あまりそう思わない、1.まったくそう思わない)による選択方式、3項目を自由記述方式により回答を求めた。その結果を以下に述べる。

#### 3.1 「子ども理解」の観点

図1に「子ども理解」に関する質問項目に対する回答結果を示す。図1に示すように、本授業で行なった、現職教員からの指導、「教師の視点」「児童の視点」からの活動、現地での活動、省察の全てにおいて85.6%以上の学生が「5.とてもそう思う」「4.ややそう思う」の肯定的回答であることが分かった。

本授業では、班ごとに見学ルートの計画や事前調査、現地に行って学ぶべき目標などを「活動のしおり」に含めるように指示をした。そのため、学生は、児童の気持ちを想像しながら活動しなければならない。このことは当然のことであるが「子ども理解」に影響を与えていると言える。一方、近差ではある

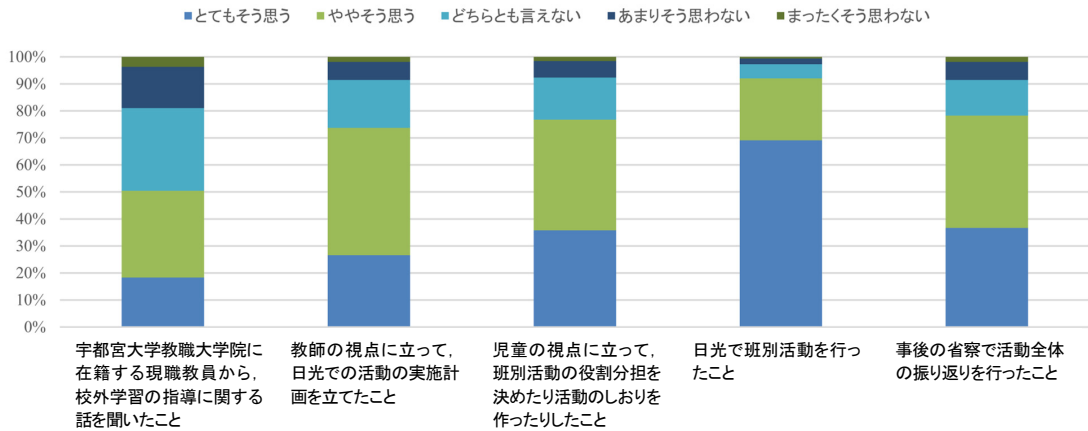


図3 「4. 以下の活動はあなたの「対人関係能力」を高めることに役立ちましたか？」の回答結果

が肯定的な回答の割合が最も高かったのが省察によって全体を振り返る活動に関する質問項目であった(91.1%)。このことから、学生は、それぞれの活動時には、その活動を行いながら意識を高めることができるが、省察による振り返り活動を行うことで「子ども理解」についてより強く意識することができたのではないかと考えられる。このことから、体験型授業を実施するときには、活動だけでなく、時間をかけて振り返る機会を設けることが重要であると考えられる。

### 3.2 「教職への使命感・責任感」の観点

図2に「教職への使命感・責任感」に関する質問項目に対する回答結果を示す。図2に示すように、本授業で行なった、現職教員からの指導、「教師の視点」「児童の視点」からの活動、現地での活動、省察の全てにおいて82.9%以上の学生が「5.とてもそう思う」「4.ややそう思う」の肯定的回答であることが分かった。

本授業で実施した、全ての活動が学生の「教職への使命感・責任感」の意識を高める効果が示唆できたと言える。また、「教職への使命感・責任感」を強く意識するのは、前述した「子ども理解」と同様に省察による振り返り活動であった(91.7%)。このことから体験型授業において振り返りを行うことの重要性が示唆できたものとする。

### 3.3 「対人関係能力」の観点

図3に「対人関係能力」に関する質問項目に対する回答結果を示す。図3に示すように、教職大学院

表3 重回帰分析1

5. 本授業の一連の活動は、あなたの教職に関する資質・能力を振り返る機会になりましたか？

回帰分析の適合度	
重相関 R	0.699
重決定 R <sup>2</sup>	0.489
補正 R <sup>2</sup>	0.482
標準誤差	0.567
観測数	327

変数の検定結果	変数の検定結果				
	係数	標準誤差	t-値	P-値	有意水準
定数	0.943	0.191	-	-	
2-(4)日光で班別活動を行ったこと	0.258	0.048	5.381	0.00000	**
2-(5)事後の省察で活動全体の振り返りを行ったこと	0.168	0.057	2.940	0.00351	**
3-(1)宇都宮大学教職大学院に在籍する現職院生の小中学校の先生から、校外学習の指導に関する話を聞いたこと	0.196	0.045	4.391	0.00002	**
4-(5)事後の省察で活動全体の振り返りを行ったこと	0.149	0.039	3.814	0.00016	**

有意水準 \*5% \*\*1%

に在籍する現職教員からの指導を除き、「教師の視点」「児童の視点」からの活動、現地での活動、省察の全てにおいて73.7%以上の学生が「5.とてもそう思う」「4.ややそう思う」の肯定的回答であることが分かった。特に、「日光での班別活動を行なったこと」への肯定的回答は92.0%と最も高く、班別活動において他の班員との交流が円滑に行われていたものと推察できる。一方、現職教員からの指導に対する肯定的回答が50.5%であったのは、活動自体が講話などの学生が受身的なものとなってしまったことが要因であったと考えられる。しかし、それ以外の観点では、体験学習時の班別行動だけでなく、計画段階や省察においても概ね他者との交流が図れたと考えられる。

### 3.4 教職に関する資質・能力を振り返る因子

質問項目5「本授業の一連の活動は、あなたの教職に関する資質・能力を振り返る機会になりましたか」への回答結果に対する因子を特定するために、重回帰分析を行なった。その結果を表3に示す。表3の下段の表に示すように、教職に関する資質・能力を振り返る機会としての活動に影響しているのは、「子ども理解」における班別活動(2-(4))と省察(2-(5))、さらには、「教職への使命感・責任感」における現職教員からの指導(3-(1))、そして「対人関係能力」の省察(4-(5))の因子が影響していることが分かった。これらの因子は、いずれも有意水準1%以下であり、教職に関する資質・能力を振り返るのに強い影響を与える因子であると言える。

まず、班別活動では、「教師の視点」として「活動のしおり」を作成し、「児童の視点」として班別活動に関する計画を行わせている。この時、学生は自身が想定する児童を思い描きながら計画を行うよう努めている。しかし、現地での活動を実際に行ったときに、計画の甘さが露見する場面があったものと考えられる。このことは、昭和女子大での実践の成果でも報告されている通り、緻密な計画の重要性を実感したのと考えられる。そのため、班別活動が教職に関する資質・能力を振り返る機会に影響するものと言える。

次に、「子ども理解」「対人関係能力」の省察が影響している要因について考察すると次のことが考えられる。省察は、いずれの観点においても肯定的意識が高いことは前述した通りである。そのため、省察を行うことは、学生の教職に関する資質・能力を振り返るために強く影響する因子であることがあらためて証明できたものと考えられる。

最後に、現職教員からの指導の因子については、現職教員が持つ経験と学生自身が児童・生徒の時代に経験したことの違いを意識させることにつながり強い影響を与えると考えられる。すなわち、自身が児童・生徒だった時は、校外学習は楽しいものであったが、教職を考えたときには楽しいだけではすまないことを指導の中で実感する機会になったのだと考える。そのため、振り返りに影響する強い因子になったと考えられる。

そこで次に、質問項目6に対して自由記述方式で回答された理由からも検討することとした。その結

表4 重回帰分析2

7. 本授業の一連の活動は、あなたにとって教職に対して前向きな気持ちを持ったり関心を高めたりする機会になりましたか？

重回帰分析の適合度					
重相関 R	0.628				
重決定 R <sup>2</sup>	0.395				
補正 R <sup>2</sup>	0.387				
標準誤差	0.739				
観測数	327				
変数の検定結果					
	係数	標準誤差	t-値	P-値	有意水準
定数	0.222	0.257	-	-	
3-(2)教師の視点に立って、日光での活動の実施計画を立てたこと	0.196	0.072	2.700	0.00730	**
3-(3)児童の視点に立って、班別活動の役割分担を決めたり活動のしおりを作ったりしたこと	0.151	0.077	1.971	0.04963	*
3-(5)事後の省察で活動全体の振り返りを行ったこと	0.297	0.072	4.131	0.00005	**
4-(5)事後の省察で活動全体の振り返りを行ったこと	0.205	0.051	4.018	0.00007	**

有意水準 \*5% \*\*1%

果、以下の5つの記述傾向が見られた。

- (1) **実践的体験と学び**：実際に体験することで得られた学びや気づき、臨機応変な対応力や危機管理能力の向上など、実践を通じて感じた成長や発見に関する記述。
- (2) **児童・生徒の視点と教師の視点**：児童や生徒の立場で考えること、教師の立場からの計画や指導に関する考察、両視点からの活動の理解や学びに関する記述。
- (3) **協力とコミュニケーション**：他の学生や教師との協力、チームワーク、コミュニケーションの重要性や学びに関する記述。
- (4) **計画と準備の重要性**：修学旅行や校外学習の計画立案、しおりの作成、安全管理など事前準備の重要性や学びに関する記述。
- (5) **困難性**：活動の難しさ、準備や計画の不足、挑戦としての活動の価値や困難に直面した振り返りに関する記述。

学生は、教職に関する資質・能力を振り返る機会として活動に関する記述(1)～(4)を通して、その振り返る機会を意識している。しかし、(5)の困難性に関する記述には、それぞれの活動の難しさや振り返りの重要性を示唆する記述も多かった。以上のことから、前述した分析結果とその理由を合わせると、活動を行うことにより教職への意識や他者との交流の大切さを実感するものの、計画の難しさを知り、先輩教員からの助言などから自身を振り返る機会を得たいと考えていることが分かった。



### 3.5 教職志向を向上させる因子

質問項目7「本授業の一連の活動は、あなたにとって教職に対して前向きな気持ちを持ったり関心を高めたりする機会になりましたか？」の回答に影響する因子を調査するために重回帰分析を行った。その結果を、表4に示す。表4に示すように重決定R2(決定係数)は39.5%であり、説明因子に対する信頼度は高くはないが、傾向として次のことが教職指向を高める因子になる可能性が示唆できたと考える。

表4に示すように、説明因子としては4つの質問項目を確認することができた。そのうち、3-(3)の質問項目は有意水準5%、それ以外の3つの因子は有意水準1%があることが分かった。このことから、教職志向を高めるためには、「教職への使命感・責任感」の観点から「教師視点の活動」「児童視点の活動」「省察」、「対人関係能力」の観点から「省察」の因子が影響するものと考えられる。

「教師の視点」の活動では、自らが校外学習を引率し、児童に学習環境を適切に与えるための計画を立案し、実践することへの「やりがい」を実感できることが影響するのではないかと考えられる。また、「児童の視点」の活動では、自らが学習者として、何を学び、何を知りたいのかを考え、班員と協力しながら学ぶことの意義を児童にも伝えたいと考える意識も影響するのではないとも言える。

一方、「教職への使命感・責任感」、「対人関係能力」の振り返り活動の因子では、自身が実感したことを他者と共有し、意見交換を行うことで、将来的なビジョンを持つことができるかどうかの影響するものと考えられる。

これらのことを質問項目8に対して自由記述方式で回答された理由からも検討することとした。その結果、次の三つの観点からの記述が見られた。

(1) 教職に対する意識の向上：楽しさと困難さを同時に実感できる体験、教師としての責任とやりがい、活動の有用性、興味や視野の拡大、教育の魅力を再認識

(2) 教職への不安：責任の重さ、児童の安全性の確保、

(3) 校外活動への期待と不安：教師の責任と負担、計画や実践の困難さ、安全指導の重要性、児童の視点を持つことの大切さ

学生は、校外学習を想定した体験型授業の体験を通して、教職への使命感・責任感をあらためて認識

していることが分かる。また、それと同時に不安を感じる学生がいる一方で、やりがいや教職への魅力についてあらためて実感した学生も多くいることが分かった。さらに、計画を検討するときに「教師の視点」と「児童の視点」の双方から検討することの重要性を意識している学生もいることが分かった。

以上のことから、校外学習を実際に体験させることは、教職志向の向上に寄与できる可能性を示唆できたと考える。

### 3.6 授業全体の良かった点、改善点

質問項目9「本授業全体の良かった点や改善点」についても自由記述回答方式で回答を求めた。その結果、以下の4つの観点からの記述傾向が見られた。

#### (1) 校外学習の計画と実施の体験

- ・教師の立場で活動を計画し、実際に実施する過程での学びや感想。
- ・教師としての準備の重要性、児童の視点を考慮した活動計画の作成の重要性に関する記述。
- ・現地で学ぶことの重要性や、実際に体験することで得られる学びの深さに関する記述。

#### (2) 大学間の交流と協働

- ・群馬大学と宇都宮大学の学生間の交流や協働の良さに関する記述。
- ・初対面の人とのコミュニケーションの難しさや共同作業を通じた関係構築の重要性に関する記述。

#### (3) 意見交流や振り返り

- ・活動後の反省や振り返りの時間の価値、他班との意見交換による学びの重要性に関する記述。
- ・振り返りを通じて得られる新たな視点や、今後の改善点の発見に関する記述。

#### (4) 今後改善を求めること

- ・活動時期(冬季、休日)や活動時間の短さに関する意見。

以上の結果、本授業で実施した校外学習を想定した体験型授業が概ね良好であったことが分かった。一方で、改善として実施時期の課題なども出された。これらの意見や改善点などについては、引き続き大学として検討していきたい。

### 5. おわりに

本報告は、宇都宮大学と群馬大学の共同教育学部の学生が交流活動を含め、合同で実施する教職特別演習Ⅱの実施結果についてまとめたものである。

方法は、日光東照宮周辺での校外学習を実際に行う活動である。両大学の学生は、この校外学習を意義のある学びとするために、「教師の視点」、「児童の視点」の双方から計画、実践、省察を学生が主体となって行った。この活動を通して、次のことが分かった。

(1) 省察（振り返り）活動の重要性

学生は、活動によって体験し、感じたことを明確に意識するためには、省察の時間を十分に確保する必要があることが分かった。

(2) 教職志向の向上には、「教師の視点」及び「児童の視点」を持って校外学習における指導を想定した活動、両大学混合の班別の活動が有効な手段の一つであることが分かった。

(3) 校外学習のように明確な目的意識を持って、経験豊富な現職教員から指導受けることは、学びの質の向上につながる事が分かった。

一方で、本授業を実施するために課題があることも分かった。特に、履修条件や実施時期などまだまだ改善が必要である。今後も両大学が協力し、よりよい授業づくりを目指したいと考える。

#### 参考文献

- (1) 昭和女子大学「特別活動の指導法」, <https://content.swu.ac.jp/shokyo-blog/2019/01/23/>  
☆遠足の練習もしています☆—特別活動の指導法/ (最終閲覧日 2024.3.27)
- (2) 長沼豊, 柴崎直人, 林幸克:「特別活動の理論と実践—生徒指導の機能を活かす—」, 電気書院 (2018)

令和6年4月1日 受理







# Significance and Challenges of Experiential Classes with Off-campus Learning in the School Teacher Training Course

Yoshihiro TAMEIKE, Yoshiaki KAWASHIMA, and Akiko DEGUCHI,  
Nao IGARASHI, Syuichi UEHARA, Seishi KAWAHARA, Daichi SAITO,  
Toshihisa MORIYASU, Sakurako MATSUSHIMA, Rie HIRAI, Hiroyuki IWASAKI